

令和3年8月2日

各関係機関の長 殿

国立大学法人富山大学長
齋藤 滋
(公印省略)

病理診断学講座 教授候補者の公募について (依頼)

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、このたび本学学術研究部医学系では、病理診断学を担当していただく教授候補者を下記要領にて公募することとなりました。

つきましては、貴学及び関係機関等に、病理診断学に関して学識、実務経験が豊富な候補者がおられましたら、ご応募いただきますようお願いいたします。

また、就任後は本学の大学院博士課程の教育及び研究指導、本学附属病院の病理部長も兼務していただくこととなりますので、ご承知おき願います。

謹白

記

1. 募集人員 教授 1名
本学では任期制を採用し、任期を10年としております。(再任可)
2. 応募資格
 - ・博士の学位を有する者(または研究上の業績がこれと同等以上と認められる者)
 - ・日本国医師免許を有する者
 - ・日本病理学会病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医を有すること
 - ・教育・研究歴10年以上の者
 - ・当該専門分野における研究業績があり、大学院修士課程及び博士課程における教育・研究指導が担当できること
 - ・科学研究費補助金等外部資金の獲得に意欲があること
 - ・地域貢献活動等、全学的活動に積極的に寄与できること
 - ・英語で講義ができることが望ましい
 - ・日本病理学会分子病理専門医(暫定含む)を有し、附属病院がんゲノムエキスパートパネルの構成員として活動できることが望ましい
3. 提出書類
 - (1) 履歴書(別紙様式1)
 - (2) 教育研究業績書(別紙様式2-1~6)
特に重要と思われるもの約10編の番号に○を付してください。
 - (3) 研究論文(PDFファイルを収めた電子媒体(CD-ROMまたはDVD) 1部)
 - ① 最近5年間(2017年以降)における英語の論文全編
 - ② 上記①以外の主要な論文10編程度

- (4) 研究の実績と将来像 (2,000 字程度：様式適宜)
- (5) 卒前・卒後の医学教育の実績と考え方 (2,000 字程度：様式適宜)
- (6) 病理診断の実績と考え方 (2,000 字程度：様式適宜)
- (7) 科学研究費等研究助成取得一覧 (別紙様式 3)
- (8) 2011 年 1 月以降に執刀又は、指導した剖検全症例のリスト (別紙様式 4) と執刀した直近 5 症例の報告書の写し及び 2018 年 4 月以降の生検・組織、細胞診の診断総件数 (別紙様式 5)
- (9) 推薦書 (様式適宜)

※提出いただいた書類に含まれる個人情報、今回の選考以外の目的には使用しません。

4. 応募期限 令和 3 年 9 月 30 日 (木) 17 時必着

5. 書類送付先

〒930-0194 富山市杉谷 2630

国立大学法人富山大学 学術研究部医学系長 (医学部長) 宛

6. その他

(1) 応募は原則として郵送 (書留) とし、封筒の表に「病理診断学講座教授候補者応募書類在中」と朱書きしてください。なお、応募書類は原則として返却いたしません。

(2) 場合によっては、面接及び講演等をお願いすることがあります。

(3) 着任時期は令和 4 年 4 月 1 日以降のできるだけ早い時期。

(4) 労働条件については、本学職員就業規則によることとします。

なお、本学では令和 2 年 4 月 1 日から新年俸制 (退職時に退職手当を支給する年俸制) を導入し、本公募による採用の際にもこの新年俸制を適用します。

(給与に関するお問い合わせ先：総務部人事課 076-445-6524)

(5) 複数の大学等の機関との重複応募は認められません。また、大学に設置された完成年度以前 (学年進行中) の学科等の教員の場合は、その旨と完成年度を明記し、所属長の許可があることが必要です。

(6) 本件に関する照会先

国立大学法人富山大学 医薬系事務部 医薬系総務課

医薬系支援チーム

電話 (076) 434-7016

FAX (076) 434-1463

E-mail ninyou@adm.u-toyama.ac.jp

(7) 様式については、本学のホームページ

<http://www.u-toyama.ac.jp/> の「教職員採用」からダウンロードして下さい。また、本学に請求していただいても結構です。

(8) 富山大学では男女共同参画を推進し、女性研究者の積極的な応募を歓迎します。文部科学省平成 27 年度科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ (特色型)」の採択を受けて、出産・子育て・介護などのライフイベントのため、研究を中断した女性研究者の支援や、国際的視野に富む女性研究者の育成に取り組んでいます。

[ダイバーシティ推進センター] <http://www3.u-toyama.ac.jp/danjo/>

以上

(様式-1)

履 歴 書

ふりがな 氏名		男・女	〒	現住所	TEL () - FAX () - E-mail
生年月日(年齢)	(西暦) 年 月 日生 [歳]				
学 歴			資格(免許, 学位等)		
年月(西暦)	事 項	年月(西暦)	事 項		
職 歴					
年月(西暦)	事 項				
学会名及び社会における活動等					
年月(西暦)	事 項				
賞 罰					
年月(西暦)	事 項				
(西暦) 年 月 日	上記のとおり相違ありません。				印
	氏名				

<履歴書記載上の注意事項>

1. 年号
全て西暦で記載してください。
2. 学歴欄
(1) 大学学部入学以降の学歴を記入願います。
(2) 研究生等の研究歴があれば記入願います。
3. 資格欄
免許(登録番号), 専門医等(登録番号)及び学位(授与大学名, 学位記番号)等資格を記入願います。
4. 職歴欄
(1) 職歴(非常勤講師を除く。)は全て記載してください。
(2) 外国出張, 海外研修及び研究休職等のうち, 2か月以上のものについて記入願います。
(注) 期間, 国名, 受入れ機関名及び身分(原語)等を記入願います。
5. 学会及び社会における活動等欄
(1) 所属する全ての学会名のほか, 役職名(評議員等)を期間を付して記入願います。
(2) 学術雑誌の編集委員等も記入願います。
6. 賞罰欄
学会賞等の受賞について記入願います。

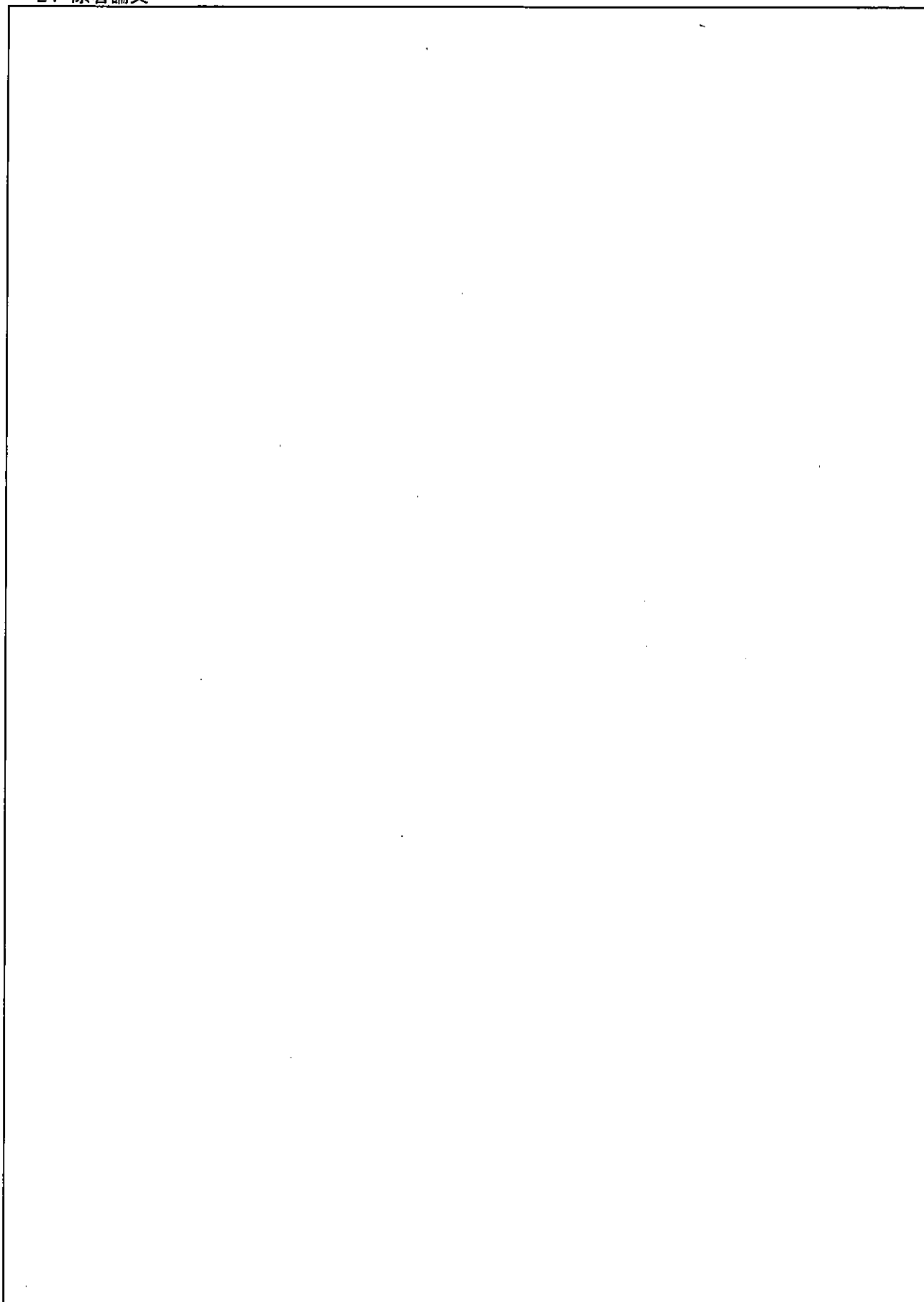
(様式 2-1)

1. 著書

--

(樣式 2-2)

2. 原著論文



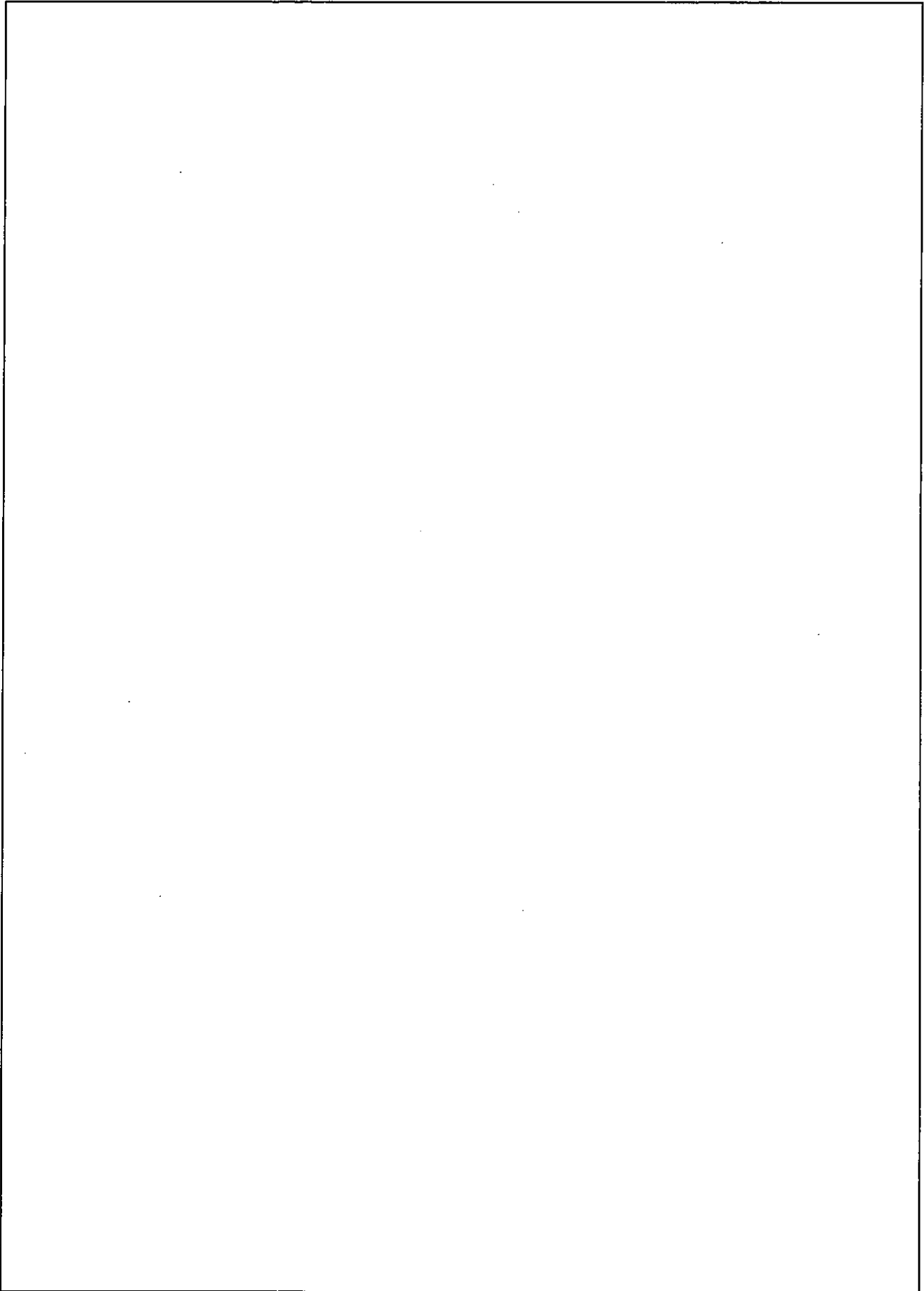
(様式 2-3)

3. 症例報告

A large, empty rectangular box with a thin black border, occupying most of the page below the section header. It is intended for the user to provide details of a case report.

(様式 2-4)

4. 総説



(様式 2-5)

5. その他

A large, empty rectangular box with a thin black border, occupying most of the page. It is intended for providing additional information or details related to the section header '5. その他'.

(様式 2-6)

6. 学会発表

--

<教育研究業績書記載上の注意事項>

1. 類別は、1. 著書、2. 原著論文、3. 症例報告、4. 総説、5. その他、6. 学会発表の順とし、各類別には、まず最初に外国語の論文を、次に日本語の論文をそれぞれ古い方から発表年（西暦）順に記入し、整理番号は、類別ごとに1から記入してください。
なお、2. 原著論文、3. 症例報告、4. 総説、5. その他については、査読制のあるものに限定し、2020年のIF（インパクトファクター）がある場合には記入してください。（責任著者には*を付けてください。）
また、プロシーディングや文部科学省研究報告書、翻訳書は、「5. その他」に分類してください。
2. 掲載予定の論文には、掲載証明書のコピーを添付してください。
3. 学会発表は、まず最初に国際学会を、次いで国内学会の順に、招へい講演、特別講演シンポジウム（パネルディスカッションやワークショップ等の主題演題を含む。）、一般演題に分けて記入してください。
なお、一般演題については、国際学会はすべて記載することとしますが、国内学会は記載する必要はありません。
4. 業績は、全員の氏名を記載順に記入し、本人の氏名にアンダーラインを引いてください。
5. 記入にあたっては、10～12Pの文字を使用するとともに、別紙記載例を参考にしてください。

1. 著書

欧 文

1. Tateyama T, Sugitani S
Metabolism of docosahexaenoic acid in the pineal gland.
In Fatty acids metabolism in the nervous system, Malsaris W and Ma
Y-Y (Ed.) , 665-684, Boston, Saunders, 2002
2. Yakushi Y, Tateyama T, and Sugitani S
Eicosapentaenoic acid and visual acuity in Japanese.
In Brain and food : 15th Keystone Conference, Mehta S and Plevin A (Ed.) ,
London, Academic Press. In press

⋮

和 文

1. 立山太郎、杉谷三郎
脂肪と健康
実地医家のための生化学シリーズ, 10, 日本臨床生化学会編, 山と溪流社,
富山, 2006
2. 薬師由美、立山太郎
インスリン抵抗性改善薬
治療薬テキスト98, 川端康茂編, 123-125, 北山堂, 東京, 2008

⋮

(様式 2-2)

2. 原著論文

欧 文

1. Tateyama T*, Tsurugi J, Yakushi Y, Zinzu K, and Dainichi M
Association between certain foods and risk of cerebrovascular accident in Japanese women.
Br Med J, 241 : 771-773, 2008 (IF : 14.093)
2. Tsurugi J, Tateyama T*, Yakushi Y, Zinzu K, and Dainichi M
Comparison of pulse wave velocity of the aorta between inhabitants of fishing and farming villages in Japan.
Atherosclerosis, 63 : 162-170, 2011 (IF : 3.794)

和 文

1. 立山太郎、剣岩魚、薬師由美、楢崎山女、神通健二、大日正
超高齢者における血清脂肪酸組成の検討
日本動脈硬化学会雑誌, 52 : 654-660, 2009
2. 薬師由美、楢崎健二、立山太郎、神通健二、大日正
大動脈脈波伝播速度・・・農村と漁村住民との比較検討
日本内科学会雑誌, 96 : 750-758, 2010

(様式2-3)

3. 症例報告

欧 文

1. Tateyama T*, Tsurugi I, Yakushi Y, and Sugitani S
Autoimmune hyperlipidemia in a patient of systemic lupus erythematosus
Am J Clin Nutr, 30 : 230-236, 2005 (IF : 6.669)
2. Yakushi Y, Tateyama T, Tsurugi I, Kuwasaki M, and Sugitani S
Cryptococcal pleural effusion in a patient with chronic renal failure receiving
long term corticosteroid therapy
N Engl J Med, 285 : 112-115, 2008 (IF : 53.298)

和 文

1. 立山太郎、剣岩魚、薬師由美、楯崎山女、大日正
溪流釣りが原因で発症したと思われる筋挫滅症候群の一例
日本腎臓病学会雑誌, 29 : 321-326, 2007
2. 剣岩魚、立山太郎、磯野波兵、黒部五郎
ヤマメ生食が原因となった広節裂頭条虫症の一例
日本内科学会雑誌, 29 : 321-326, 2009

(様式 2-4)

4. 総説

欧 文

1. Tateyama I and Sugitani S
Cardiovascular effects of n-3 fatty acids.
lancet, 3331 : 449-457, 2002
2. Tateyama I
N-3 polyunsaturated fatty acids and cytokine production in health and
disease
Ann Nutr Metab, 45 : 203-234, 2006

：

和 文

1. 立山太郎
EPAの生化学
喘息, 15 : 35-40, 2005

：

(様式2-5)

5. その他

欧 文

1. Tateyama T

Fish and health

Proceeding of 16th annual meeting of the American Association of Fishermen and Anglers, 210-222, Baltimore, USA, 2002

.

和 文

1. 立山太郎、黒部五郎、西鎌尾根男、杉谷三郎

ループス肺臓炎の治療

厚生省特定疾患「全身性エリテマトーテス」研究班平成3年度報告書,
201-230, 2001

2. 立山太郎

ループス腎炎

デュポー 全身性エリテマトーテス 第4版 (日本語翻訳書), 654-720,
立山書院, 東京, 2005

3. 立山太郎、黒部五郎、西鎌尾根男

DHAと心筋梗塞・不整脈

平成9年度水産資源からのDHA等の抽出精製及び生理機能の研究に関する報告書
120-145, 社団法人マリノフォーラム21, 2007

(様式 2-6)

6. 学会発表

国際学会

○招聘講演

1. Tateyama T

Lyspro in sulin---a new strategy for diabetes therapy
33rd symposium of diabetes care, Bethesda, MD, USA, 2007

・
・

○特別講演

・
・

○シンポジウム

・
・

○一般演題

・
・

国内学会

○招聘講演

1. 立山太郎

インスリン作用とその異常-代謝作用から増殖作用まで
第51回日本糖尿病学会年次学術集会、熊本、2008

・
・

○特別講演

・
・

○シンポジウム

・
・

氏名

著書・原著論文等の合計数一覧

種 別		発表年		
		2011年以前	2012年～2016年	2017年～
著書	外国語	編	編	編
	日本語	編	編	編
原著論文	外国語	編	編	編
	日本語	編	編	編
症例報告	外国語	編	編	編
	日本語	編	編	編
総説	外国語	編	編	編
	日本語	編	編	編
その他	外国語	編	編	編
	日本語	編	編	編
学会発表	国際学会	編	編	編
	国内学会	編	編	編

※教育研究業績書に記載した原著論文等の合計数を御記入願います。

(様式3) 科学研究費等研究助成取得一覧

氏名 年 月 日 印

* 過去10年間の科学研究費・財団等の研究助成実績について記載願います。

年 号 (西暦)	種類	研究課題名	代表・分担の別 (分担の場合は代表者名)	継続にあつては、その年数

(様式5)

氏名 _____

生検・組織診断、細胞診件数

期 間	生検・組織診断 件 数 (内術中迅速数)	細胞診件数
2018年4月 ～ 2019年3月	件 (件)	件
2019年4月 ～ 2020年3月	件 (件)	件
2020年4月 ～ 2021年3月	件 (件)	件
2021年4月 ～ 現 在	件 (件)	件

※件数には、() 内に術中迅速件数を記載して下さい。